

◆ 「対話」のある探究活動 ◆



地域の住民や団体等と共に企画・実施することは、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に大きな意義を持つもの」(文科省HP 地域との協働による高等学校改革の推進について(通知))



とても晴れやかなものであった。

この取組は今後も続く。特に「対話的な学び」の視点に注目したい。中教審答申(平成28年12月)でも、「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。」が問われている。今回、この「地域の人」との対話がなかったことで、大きな視野が広がったと信じたい。

ソクラテスは問いかける。知るとは何か、美とは何か、善きものとは何か等々…。そこには対話がある。今後も続くこの「探究」学習において、「対話(dialogue)」と「会話(conversation)」の棲み分けができていくか、それが深い学びに繋がっているかをよく吟味しなければならない。

以前にも記したように、本校の「探究」活動は主体的によりよい地域社会を作ろうとする姿勢を育成することを大きな目標としている。PDCAを廻しながらよりよい果実を育てたいと思う。茨城南青年会議所・取手市役所の皆さん、今回は大変ありがとうございました。

グループ毎にいろいろな意見が飛び交っている。コーディネーター役は社会人の皆さんだ。

本校の授業公開日(10月24日)に合わせ実施した1年生の「探究」活動。今回は、茨城南青年会議所・取手市役所の皆さんのお力添えをいただき、各クラスを離れ、興味のあるSDGsごとにして編成したグループとしての学びになる。

地域との連携については、「社会教育関係者をはじめ地域の多様な主体と学校が連携・協働し、高校生が地域課題を解決する取組を地域との連携については、「社会教育関係者をはじめ地域の多様な主体と学校が連携・協働し、高校生が地域課題を解決する取組を地域との連携については、「社会教育関係者をはじめ地域の多様な主体と学校が連携・協働し、高校生が地域課題を解決する取組を

さて、そのように始まった学びではあるが生徒の皆さんは多くの示唆を得たようだ。一人では限界のある話題について、グループ内のメンバーからいろいろな意見が出る。そこに青年会議所や市役所の「大人」の声が入る。多くのKJ法の付箋から、一つ止揚した段階での新たな視点が加わる。2時間連続の授業ではあったが、多分あつという間の時間だったと思う。各教室から、控え室に戻ってきた「大人」の皆さんの表情は、

